

野田の戦後改革

(のだのせんごかいかく)



野田警察署
(昭和32年頃)

写真は、現在の下町交差点のところにあった昭和32年(1957)当時の野田警察署です。この警察署は、昭和32年まで国家地方警察野田地区警察署と呼ばれていました。そして、昭和32年まで野田にはもう一つ警察署がありました。自治体警察野田町(市)警察署です。

自治体警察はアメリカの警察制度をモデルとしたもので、その管理運営は市などの自治体にまかせられました。昭和23年(1948)3月、全国の市と人口5000人以上の町村にこの自治体警察が置かれることになりましたが、千葉県には実験的に昭和22年(1947)11月から配置されました。なお、人口5000人未満の町村は国が管理運営する国家地方警察の管轄下に入り、野田町には周辺町村を管轄範囲とする野田地区警察署(前述)も置かれました。

太平洋戦争に敗れた日本は、昭和20年(1945)から昭和27年(1952)までアメリカなど連合国軍の占領統治下に置かれました。そして、連合国軍最高司令官マッカーサーとその総司令部(GHQ)は、日本を「民主化」するため数多くの指令や命令を発しました。自治体警察の設置もその一つで、その目的は「民主主義」の基盤となる地方自治体の権限の強化にありました。

現野田市域にも「民主主義」や「戦後改革」の波は押し寄せました。野田醤油や東武交通野田支部には労働組合が組織され、野田町教員組合も組織されました。さらに、「英語を学ぶサークル」や「民主主義」の実現を目指す民主同志会(福田村)のような団体も組織されました。自治体警察の設置、新制中学・高校の開設、農地改革による小作地解放といった制度改革も次々に実施されていきました。

しかし、戦後の食糧・物資不足やインフレで人々の生活は苦しく、農村は国や県、占領軍当局による供出米の督促に四苦八苦ししました。新制中学・高校の建設や自治体警察の運営にともなう多額の出費は町村役場の財政を直撃しました。昭和29年(1954)6月全国の自治体警察は廃止され、野田市警察署も役目を終えました。その最大の原因は財政難にあったのです。

詳しくは...

- * 上山和雄・栗田尚弥 2000「福田村長から野田市長へ、そして... - 元野田市長新村勝雄氏に聞く - 」『野田市史研究』第 11 号 野田市
- * 下津谷達男他 2000「座談会 野田を語る 50 年前を振り返って」『野田市史研究』第 11 号 野田市
- * 千葉県警察史編さん委員会編 1985『千葉県警察史』第二巻 千葉県警察本部

英語を学ぶサークルの人たち（昭和 21 年 2 月 興風図書館にて 中村裕子氏提供）



農地祭（昭和 24 年 8 月 7 日 福田村役場前にて 秋山祐一氏提供）

